

研修報告書No. 2 1

所 属：東京大学医学部附属病院
氏 名：2年目研修医 森 雄一郎
研修先：本山町立国保嶺北中央病院
いの町立国保長沢診療所
大川村国保小松診療所
高知市土佐山へき地診療所

高知県長岡郡本山町にある嶺北中央病院で、2016年2月、3月の2か月間研修をさせていただきました。通常、初期研修における地域医療研修は1か月ですが、幼少期を過ごした高知県への思い出が強く、ローテーションの自由選択枠を使用して研修期間を延長させて頂きました。15年ぶりに訪れた高知県で医師として働くことは掛け替えのない経験でした。その中で感じた事を報告したいと思います。

1. 嶺北地域の概要

嶺北地域は高知県中央北部、四国全体の中央に位置する。医療の面では高知県の中央医療圏に属し、大豊町、本山町、土佐町、大川村の4自治体、人口約13,000人が嶺北広域市町村圏として、嶺北中央病院のカバーするエリアとなっている。人口は東西に走る物部川流域に集中しており、したがって人の移動も東西に長い。嶺北中央病院の他に2つの病院と4つのクリニックが物部川流域には存在している。病院、クリニックのカバーできない山間部に関しては、へき地診療所が設置され、大学病院や嶺北中央病院からの派遣医師が交代で診療にあたっている。

日本全国のいわゆる田舎の例に漏れず、過疎と高齢化が進んでいる。今回研修した本山町も、人口4,103人、高齢化率40%と高齢化が進みながら、さらに人口も毎年50人のペースで人口が減少している。一方で高知市内から車で40分という比較的良好なアクセスや、豊富な自然環境を売りとして、毎年5-10世帯程度の移住者もいるようであった。

2. 嶺北中央病院の診療

24時間365日救急対応を行っている。一方で小児科はなく、小児医療は高知市内の病院もしくは近隣の医院や私設病院が担っている。一般病床59床、医療型療養病床52床、結核病床20床、合計131床の中規模病院であり、常勤医は8名、うち6名が大学や自治医大、後期研修プログラムなどからの派遣である。麻酔科は無いが、脊椎麻酔下での大腿骨転子部骨折のORIFなどの手術も行っている。夜間救急の最後の砦である一方、近隣の住民の意見としては、毎年主治医が変わる点で必ずしも満足度が高いとはいえないようであった。

3. 本山町の健康課題

病院でのみ働いていると視野が狭まると感じた。病院で接する方々はそのほとんどが後

期高齢者であるが、保健福祉センターの方々に話を伺うと、本山町全体を見渡した際に、特に大きな健康課題は壮年期の慢性疾患（高血圧、糖尿病）や喫煙、偏食などの生活習慣と、子供の健康の2点であった。特定健診の受診は40歳代に一度受信したきり、基準に該当してもそのまま脱落してしまう方が多く、50歳代での受診率は10%台であった。また、子供の虫歯・肥満・虐待が多く、小学校1年生での虫歯率80%という数字は、全国平均の50%程度と比較してもかなり高い。このように未来ある世代に対してのアプローチが足りておらず、またその必要性は病院の外に目を向けなければ分からないことを気づかせて頂いた。

4. まとめ

本研修では単に病院での研修を行うだけでなく、僻地診療所や保健福祉センター、限界集落、往診や訪問リハビリ、デイケアの現場なども多く訪れる事ができました。人を診るだけでなく地域を診ることの大切さを感じるとともに、それは病院の外にどれだけ目を向けることができるかなのだとの思いを深くしました。大変勉強になりました。有難うございました。